

■ダム事業の概要

宇奈月ダムは、黒部川河口より約20.7km上流に位置し、高さ97.0m、総貯水容量24,700,000m³の規模を持つ、重力式コンクリートダムです。当ダムは多目的ダムとして昭和54年4月より建設工事に着手し、平成13年4月より管理に移行しています。

宇奈月ダムでは、洪水調節、水道用水の確保、発電の機能を果たし、下流地域の安全・安心で豊かな生活を守るため、常時、流域の雨量や水位・流量など様々なデータの収集や施設の点検・整備などを行っています。

また、黒部川は土砂生産量が多く、宇奈月ダムにも大量の土砂が流入することから、直轄ダムでは初めての排砂設備を有し、上流の出し平ダム(関西電力)との連携排砂を行っています。

● 宇奈月ダムの目的

洪水調節

愛本基準点の基本高水ピーク流量7,200m³/sのうち、宇奈月ダムにより700m³/sの洪水調節を行います。

水道用水

富山県東部地区に1日最大58,000m³(毎秒0.68m³)の水道用水を供給します。
〔魚津市、黒部市(旧宇奈月町含む)、入善町、朝日町〕

発電

関西電力の宇奈月発電所において最大出力20,000kwの発電を行うほか、宇奈月ダム貯水池を逆調整池とする新柳河原発電所において最大出力41,200kwの発電を行います。

■連携排砂

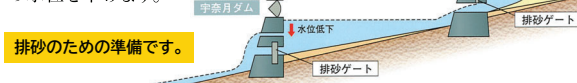
宇奈月ダムは、排砂ゲートを兼ね備えた全国で唯一の多目的ダムです。毎年、6月～8月の間において上流の出し平ダム(関西電力)と連携して排砂を行い、下流に土砂を通過させています。

排砂とは、貯水池内の一定の堆砂形状をできるだけ維持するため、それ以上に堆積した土砂を流すことでダム機能を維持し、下流河道の河床低下防止、海岸侵食防止にも寄与しています。

■連携排砂の仕組み

1. ダムの水位を下げます

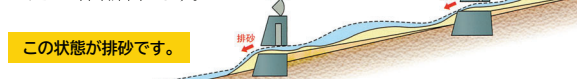
ダム湖内を川の流れにするためにダム湖内の水位を下げます。



排砂のための準備です。

2. 土砂を排出します

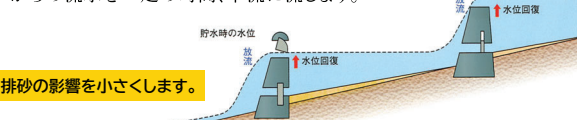
川の流れる力を使い、土砂と水をダム下流に一定の時間排出します。



この状態が排砂です。

3. 最後にもう一度水を流します

ダム下流の川にたまった細かい土砂を洗い流すために、ダム湖内の水位を回復させ上流からの流水を一定の時間、下流に流します。



排砂の影響を小さくします。

■海岸の砂浜回復(黒部市荒俣付近)

昭和45年



平成7年



令和6年

